「やればできるをやりきる」

校長　泉　谷　俊　郎

今年の文化祭は、皆さんの力で教室展示、部活動の発表をはじめ、体育館行事やバザーまでやりきることができました。このことはとても誇りに思うべきことです。皆さんの意識が高く一人ひとりが良い文化祭にしようという意志をもって主体的に行動したからではないでしょうか。いろいろなことが高いレベルでできていて、特に体育館内での行動や集合は素晴らしかったと思います。

そこで考えてほしいことがあります。十五分間程度話をせずに静かにしておくことは皆さんにとってどの程度の難易度ですか。技術的能力的に困難だと感じている人はどれくらいいるでしょうか。技術的能力的に困難というのは極端に言うと一〇〇メートルを九秒台で走るというような意味です。ほとんどの人にとってはできることではないと思います。対して静かにすることの難易度は一〇〇メートルを時間制限なく移動するくらいのことかもしれません。この比較的低い難易度の行動が必要な時にできるかできないかということです。能力的に不可能でないことをきちんとできる人が「やればできるをやりきる人」です。これは、多くのことに通じています。「やればできるから」で後回しにしたりやれたような気になったりしていることはないでしょうか。それは能力はあっても「やりきる力」が不足しているということになります。

人は能力を高めることに対して努力します。しかし、それを発揮する力がなければせっかく身につけた能力は効果的に生かせません。一〇〇メートルを一〇秒で走れる力をつけた人でも、必要な時にそれを発揮できなければ記録は二〇秒かもしれません。ただ、常にすべてを発揮し続けなければならないということではありません。自分に実力があることを認識し、必要な時には発揮できるという確信さえあれば時と場合によっては調節してもよいことです。発揮する力が身についてさえいれば、どちらにもコントロールできます。しかし、「発揮する力」が間違いなくあるという自分自身の確信は、誰かから与えられるものではなく、自ら実績を積んで高めていくしかないことです。技術能力を高める力とともに発揮する力を高めていくことが必要です。「発揮する力」は「やればできるをやりきる」につながっています。この力を高めるには、日頃から自分の行動に意識を向けて自信をつけることです。

小さなことですが、体育館で状況に応じた行動がきっちりできる人は、ここぞという大事なときに自分のもっている力をしっかり出しきれる人です。これは間違いなく「発揮する力」につながっているのです。それができたら「やればできるけど」で置き去りにしていることを一つ一つ行動に移して、発揮する力を高めましょう。まずは、「やればできるをやりきる」。それができれば次にもっと高い目標を達成することへと挑戦していきましょう。皆さんには「やればできるをやりきる人」としての毎日を過ごしてほしいと願っています。せっかく身につけている多くの力をこれから存分に発揮するために。